

株式会社  
セールスフォース・ジャパン  
YATOMI TOSHIHIRO  
彌富 敏宏さん

Profile

- ・2014年 熊本マリスト学園高等学校卒業
- ・2016年 アメリカ スカジット・バレー・カレッジ ビジネス学部卒業
- ・2018年 ニューヨーク州立大学ビンガムトン校ビジネス学部 経営情報システム学科卒業、帰国
- ・2018年 EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社入社
- ・2021年 フェンダー・ミュージック株式会社入社
- ・2023年 株式会社セールスフォース・ジャパン入社



海外生活で培った  
自分の興味を尊重し  
チャレンジする精神

2021年に入社したフェンダー・ミュージック株式会社のオフィスにて

Chance [チャンス] 海外進学のきっかけ

中学生の頃に海外の文化や洋楽に興味を持ち始め、将来は大学で音楽ビジネスを勉強したいと考えていました。しかし日本には音楽ビジネスを専攻できる大学が少なかったため、高校2年生の時にエンターテインメント産業の中心であるアメリカで勉強をしたいと考えようになりました。

Challenge [チャレンジ] 進学に向けて頑張ったこと

英語の学習はもちろん、両親の勧めもあり、留学手続き(留学ビザ申請やESTA申請、進学先とのやりとりなど)を可能な限り自分でチャレンジしたことは、その後の留学生活に大変役立ったと感じています。また、日本に在る間に進学先の日本人学生にコンタクトし、事前に留学生活や学校の様子を知れたことは、人生で初めての海外生活への不

安を和らげてくれました。

Challenge [チャレンジ] 海外進学を機に変わったこと

人前に出ることや自分の意見を伝えることが苦手でしたが、海外進学を通して、自分の興味や挑戦したいことを尊重し、失敗を恐れずチャレンジすることの重要性を学びました。これは社会人になった今でも、物事を判断する際の自分の軸となっています。

現在は株式会社セールスフォース・ジャパン(東京都)で人事オペレーション業務(人事関連の問い合わせ対応やデータ分析、人事プロセス改善など)に携わっています。今後はAIを含む新たなテクノロジーの知見を広げつつ、それらを活用した新しい人事オペレーションの仕組み作りにも貢献していきたいと考えています。

もっと知りたい! 海外進学 Q&A



Q1 海外進学が自分に与えた影響は?

高校卒業後に進学したスカジット・バレー・カレッジでは、卒業生の大半が4年制大学へ編入していたため、将来のキャリアについて考える機会はあまりありませんでした。一方で、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校に編入後は、周りに投資銀行や会計事務所でのインターンシップを経験したり、全米ビジネスケースコンペティションに入賞したりする優秀な学生を目の当たりにし、将来を真剣に考える機会となりました。

Q2 大学生活の中で注力したことは

現地に慣れ親しめるよう自ら進んで行動しました。スカジット・バレー・カレッジでは、学内で留学生向け英語クラスの教授助手のアルバイトを経験し、クラスのディスカッションのサポートやエッセイの添削を通して留学生のサポートに積極的に携わりました。ニューヨーク州立大学ビンガムトン校では、日本人学生会の「Japanese Association」に加入し、会長として組織をまとめる傍ら、日本に興味のある学生に向けた日本文化イベントや、ネイティブスピーカー同士がそれぞれの言語を学び合う「Language Exchange」のアクティビティの実施に関わりました。



スカジット・バレー・カレッジのあるマウントバーノンで開催されたチューリップフェスティバルの様子



ニューヨーク州立大学ビンガムトン校の卒業写真



日本文化交流会のイベント後の集合写真

後輩へのメッセージ

自分の得意や興味が見つかるはず!

海外留学は私の人生の中で大きな転換期となりました。留学中は苦労や困難もありましたが、自分の得意や興味を見つけられただけでなく、世界中に大切な友人ができ、価値観や視野を大きく変えるきっかけを作ってくれました。留学の機会があれば、ぜひ今まで経験したことのない多くのことにチャレンジしてもらいたいと思います。そうすればきっと、まだ自分が気付いていない「新たな自分の可能性」を見つけることができますよ!



Profile

- ・2014年 熊本中央高等学校卒業
- ・2016年 アメリカ ハーキマー・カウンティ・コミュニティカレッジ  
トラベル& イベントマネジメント学科卒業
- ・2018年 アメリカ ジョンソン& ウェールズ大学  
ホテルマネジメント学部卒業、帰国  
マンダリン・オリエンタル東京株式会社入社
- ・2023年 マンパワー株式会社入社 (勤務地: 楽天グループ本社)



もっと知りたい! 海外進学 Q&A



Q1 海外進学に向けて準備したことは?

英語です。海外チャレンジ塾で週に1回開催されるTOEFL講座に初めて参加した時は全く理解できず、悔しくて最初の1時間後の休憩の際に涙を流しました。同塾の下級生の方が英語力が高く、悔しいけれどもクラスでなかなか発言できずに苦戦しましたが、渡米後にとっても役立ちました。

Q2 どんな課外活動をしていましたか?

ハーキマー・カウンティ・コミュニティカレッジでは、寮生活だったので、卒業前の最後の学期に寮長を務めました。定期的に学生が楽しめるイベントを企画・運営し、寮生が安心して生活できるようサポートしました。ジョンソン&ウェールズ大学へ留学して1年目はすごく不安を感じていました。だからこそ2年生のときは、新入留学生のためのオリエンテーションリーダーを担当。最終日に「楽しかった。ありがとう」とグループメンバーに言ってもらえたことは今でも覚えています。自信がなくても不安でもやって良かったと思いました。



仕事にも役立つ  
柔軟な考え方に触れ  
人生がもっと豊かに

勤務先の楽天グループ本社にて



ジョンソン&ウェールズ大学では寮の留学生オリエンテーションリーダーを務めました



マンダリン・オリエンタル東京株式会社に勤務していた頃の様子 (右)



ハーキマー・カウンティ・コミュニティカレッジの卒業式 (右から2番目)

Chance [チャンス] 海外進学のきっかけ

高校2年生の頃、教会の英会話教室でアメリカの宣教師と出会い、海外進学を検討するようになりました。宣教師のポジティブな考え方や、人をほめたり、愛や感謝を言葉にしたりする習慣に惹かれたからです。また、あえて家族も友達もない環境に身を置くことで「中途半端な自分の性格を変えたい」という思いもありました。

Challenge [チャレンジ] 進学先で挑戦したこと

進学先は熊本県の海外チャレンジ塾の担当者にアドバイスをいただきながら、決定しました。また、学校の先生からも奨学金の申請を案内してもらうなど、比較的スムーズに手続きを進めることができました。

最初に入学したのは公立の2年制大学のハーキマー・カウンティ・コミュニティカレッジです。教授との距離が近

く、質問がしやすい雰囲気大きなメリット。学業に専念できたことで、成績優秀者名簿ディーンズリストに自分の名前が載り、自信につながりました。

Change [チェンジ] 海外進学を機に変わったこと

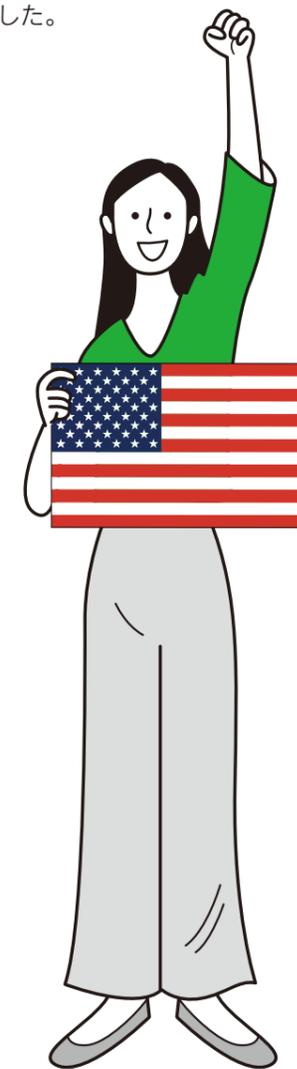
いろいろな国の人の考え方やその背景に触れ、固定概念をあまり持たなくなったように思います。表面的なものではなく、その背景や事情なども考えながら物事を柔軟に促えられるようになりました。

また、海外進学は確実にキャリアの選択肢を広げてくれるはず。学校ではホテルマネジメントを学びましたが、海外生活の経験が評価され、ホテルのほか、不動産やIT企業での勤務の際には、未経験にもかかわらずいろいろなことに挑戦させてもらいました。現在は楽天グループ本社で人事を担当しています。今後も「これが正解」と決めつけずに、柔軟に自分の人生を歩んでいきたいです。

後輩へのメッセージ

自分の気持ちに素直に行動を

とにかく今を楽しんでほしい。やりたい、気になる、行ってみたいという気持ちに正直に行動してほしい。海外でも日本でも、今その時にしか経験できないこと、出会えない人がいる。海外での経験は、思考を柔軟にし、いろいろなことを吸収できるなど、自分の成長につながります。とにかく今しかできないことにどんどん挑戦してってください。応援しています! 自分はなんでもできると信じていきましょう。



Profile

・2015年 熊本第一高等学校卒業  
・2019年 アメリカ ワシントン大学経済学部卒業、帰国  
・2021年 平田機工株式会社入社



もっと知りたい！ 海外進学 Q&A



Q1 現地での経験で印象に残っていることは？

私は高校卒業後、海外生活の全てをシアトルで過ごしました。いろいろな人種が集まっている都市なので、留学生活を通して、台湾やシンガポール、タイ、香港などの文化や言語、考え方を学びました。

アメリカでは、運動施設が充実しているので、日常的に運動をしていました。休みの日には湖でSUPやハイクをして自然を楽しみました。

Q2 どのような授業を受けましたか？

専攻のビジネスの他にも建築や茶道、日本政治など、自分の興味のあるクラスを受けました。特に日本政治の授業では日本とは異なる観点で授業を受け、他のクラスメートの意見も知ることができて新鮮でした。また、地元企業であるアマゾンやマイクロソフトで実際に活躍している方たちに指導してもらう機会もあり、いい刺激を受けました。



英語力を活かして  
日本と海外つなぐ  
架け橋に！

ワシントン大学の卒業式にて



4月には桜が咲きたくさんの人が訪れるワシントン大学の広場



フリスビーの練習後にみんなでアイスクリームを堪能（前列右端）



スピーキング向上のため、高校生の時に経験した熊本駅の街案内ボランティア。海外の人と積極的に交流しました(左)



先輩へのメッセージ

挑戦したい気持ちを重視して

留学はさまざまな形がありますが、挑戦し外を見ることは大きな気付きや成長につながると思います。ぜひ挑戦したいという気持ちを大切にもらいたいです。大変なこともあると思いますが、目標に向かっていろんなことにアンテナを張りながらたくさん挑戦してほしいです。先輩の皆さんの活躍を心から応援しています！

Chance [チャンス] 海外進学のきっかけ

高校2年生の時、研修で初めてオーストラリアに訪れました。カルチャーショックを受けましたが、自分の知らない世界や考え方をもっと知りたい、英語で学びたいと思ったこと、また学びながら専攻を選べる海外のシステムに惹かれたことから、海外進学を決意しました。

Challenge [チャレンジ] 進学に向けて頑張ったこと

TOEFLやエッセイの添削、スピーキング対策は熊本県の海外チャレンジ塾のほか、学校のALTの先生にもサポートしてもらいました。進学先決定の際に参考にしたのは同塾の先輩の話。進学準備は周りに情報が無い中で先輩などから情報収集をして試行錯誤しながら進めました。アメリカでは語学学校、短期大学、4年制大学と編入し、そのたびに英語力が問われてテストに苦労しましたが、授

業の中で読み書きを特訓し対応しました。

Challenge [チャレンジ] 海外進学を機に変わったこと

学んだのは、人や国、環境によって考え方や価値観が違うということです。アメリカの文化や違いを知ることは、日本の素晴らしさや自分を知り、理解する機会になりました。留学中に会った全ての人は、今の自分の考え方に影響を与えています。その中で「日本と海外をつなぐ」が私のキーワードとなり、ミッションとなりました。特に日本の素晴らしい技術を広めたいと、現在は地元の平田機工で営業として働いています。仕事内容は見積もり業務をはじめ、エンジニアとお客さまの間に立ちプロジェクトを進めていくこと。80%以上が海外のクライアントで、身に付けた英語が役立っています。今は支社のあるテロイトと熊本を行き来する日々です。熊本にいても海外と地元をつなぐ仕事ができていることを誇りに思います。

Profile

・2015年 熊本学園大学付属高等学校卒業  
・2019年 アメリカ 州立モンタナ大学森林保全学部資源保全学科卒業、帰国  
・2020年 環境省入省



アメリカの大学で  
国立公園の管理を学び  
日本の自然保護の仕事へ



奄美群島国立公園管理事務所、国立公園の管理や世界自然遺産地域の保全を担当(左)

Chance (チャンス) 海外進学のかきかけ

子どもの頃から外国の文化や英語で話すことに興味があり、いつかは留学したいと考えていました。転機が訪れたのは高校3年生の時。熊本県の海外進学説明会で熊本・モンタナ奨学制度のこと、そして対象の大学である州立モンタナ大学で自分の興味のある分野を詳しく学べることを知り、海外に進学することを決めました。

Challenge (チャレンジ) 進学に向けて頑張ったこと

海外進学を決めてから、大学での授業で使う単語(数学の単語や元素の名称など)の勉強を中心に行いました。高校では、英語の先生にお願いして、エッセイの添削してもらい、ALTの先生と週に一度お昼ご飯を一緒に食べて、英語で会話する練習をしました。また、ピザなどの手続き書類は事前に手順をしっかり確認し、書類がそろい次第

すぐ手続きを進められるように準備しました。

Change (チェンジ) 海外進学を機に変わったこと

大学では、英語でさまざまなバックグラウンドを持つ人々と話す機会が多くあります。知らなかった文化や多様な考え方に触れ、認め合う大切さを体感しました。そして、日々のコミュニケーションの中で、個性や違いを受け入れられるようになりました。また、授業も含め多様な考えの中で意見を持つことや発言することが求められるので、人前で自分の考えを表現する力も鍛えられました。

卒業後は、日本で国立公園に関わる仕事がしたいと考え、環境省の仕事に就きました。留学中の長期休みに友人とアメリカの国立公園を巡ったほか、授業で国立公園の管理について勉強したことがきっかけです。アメリカの自然保護の在り方は日本とは大きく違うので、現地で学んだことを今後の仕事に活かしていきたいです。

もっと知りたい! 海外進学 Q&A



Q1 実際に海外進学をしたの感想は?

学業面では毎日勉強漬けでしたが、充実した日々を過ごせました。アメリカの大学は選択できる授業の幅が広く、マイナー(副専攻)を取得できるため、自分の興味を深められます。3年目以降はアルバイトやインターンシップをしてより忙しくなりましたが、毎日会話することで英語力がさらに上がり、友達も増えました。

Q2 どのように生活していましたか。

最初の1年は寮に、2年目以降はアパートに住んでいました。最初は食事が合いませんでしたが、アパートに住んで自炊をするようになってからは、時々、日本食を作っていました。しばらくすると何でもおいしく感じるようになりました。アメリカの田舎町に住んでいましたが、小さいながらもお店がたくさんあり、元々田舎が好きだったこともあって、生活面で苦労することはありませんでした。



大学から車で30分ほどの場所にあるスキー場でスノボを体験(右)



同じ研究室の友人との思い出の一枚(右から2番目)



小型飛行機で森林火災の煙の調査へ

後輩へのメッセージ

思い切ってチャレンジしよう

家族や友達から遠く離れ、全てが自己責任となる環境で4年間過ごすのは勇気があると思います。語学や学校の勉強はもちろん大変ですが、アメリカの大学は先生や職員によるサポート体制が整っていますし、授業の中でも努力している姿はきちんと評価してもらえます。何より自分が憧れていた場所で興味がある内容を勉強するのは楽しい経験です。ぜひ、思い切ってチャレンジしてみてください!

